

令和2年度地域づくり事業実績報告

【令和元年度～2年目】

団体名	伊王野地区地域づくり委員会	代表者	益子 英夫
事業名	地域高齢者の居場所作り	事業費	499,863円
		交付金	499,863円

(1) 地域の現状と課題
 町全体で高齢化率36%の現状である。地域内においてはコミュニティーはしっかりしているが、少子高齢化の波に飲み込まれてしまうことに危機感があるため、地域で支え合える体制作りが必要である。
 (送迎関係、居場所づくり、日常支援、見守り体制づくり等の情報が集まる場所づくり)

(2) 事業目的
 地域に住んでいるみんなが「安心して」「健康で」「安全に」住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるようにしたい。隣近所のつながりを大切に、みんなで支え合う地域を目指したい。(気軽にいつでも集えるサロンづくり)

(3) 事業概要
 ①役員会・委員会の開催
 役員会(3回) 9/9、11/24、1/16(延べ18名参加)
 委員会(1回) 9/29(24名参加)
 拠点場所建物内部改装作業等の活動方針や日程についての協議を行った。
 ②拠点整備 拠点場所：那須町大字伊王野1547-3
 ○片付け作業(3回) 10/10、11/14、11/18(延べ30名参加)
 建物内部改装作業にあたり、清掃作業や粗大ごみの処分を行った。
 ○屋内整備(2回) 10/26、12/12(延べ17名参加)
 ・エアコンの設置、照明器具取付、カーテン取付等を行った。
 ・椅子・テーブルを配置し、テレビやポット等の備品を揃えた。
 ③サロンオープンに向けた活動
 ・管理運営の方針を策定する。
 ・コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、仮オープンを検討する。



◆事業の成果や効果◆
 高齢者が安心して趣味の活動や得意分野の活動を通して、生きがいを持って生活ができる場所の確保と改装整備をすることができた。
 住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための地域の特色に合った「地域サロン」の運営が期待できる。

令和2年度地域づくり事業実績報告

【平成30年度～3年目】

団体名	芦野地区地方創生協議会	代表者	白井伸雄
事業名	芦野根古屋地区景観整備事業（武家屋敷）	事業費	680,258円
		交付金	500,000円

（1）地域の現状と課題

芦野地区は城下町、宿場町でもあり、那須町で唯一江戸時代の面影が残る地であるが、現在高齢化が進み、特に根古屋地区には、江戸時代芦野家家臣団の屋敷があったが、現在子孫は芦野を離れ、敷地や屋敷は放置され、荒れ果て往時の面影はない。

後継者不足によって、保全・継承も困難となり地域内外の交流も減少しているなか、交流人口の増加を図るためには、この地域を観光地・芦野を代表すべきエリアとして存続させ、これまでの名所旧跡に加え、新たな歴史と文化の空間を作る必要がある。

（2）事業目的

根古屋地区芦野家家臣の屋敷跡は景観が偲ばれる数少ない空間であり、これらの空間を磨き上げ、集客効果の上昇や郷土愛の醸成を図ることを目的とする。更に、屋敷跡周辺の御殿山を中心として散策コースを魅力的な景観へと導くことで観光客の滞在時間を延伸し、地区内の商業活動への波及効果を図る。

（3）事業概要

①協議会の開催

コロナウイルス感染症の影響により開催できず、メールや電話により情報の共有を図った。

②屋敷跡地の整備と生垣の形成事業

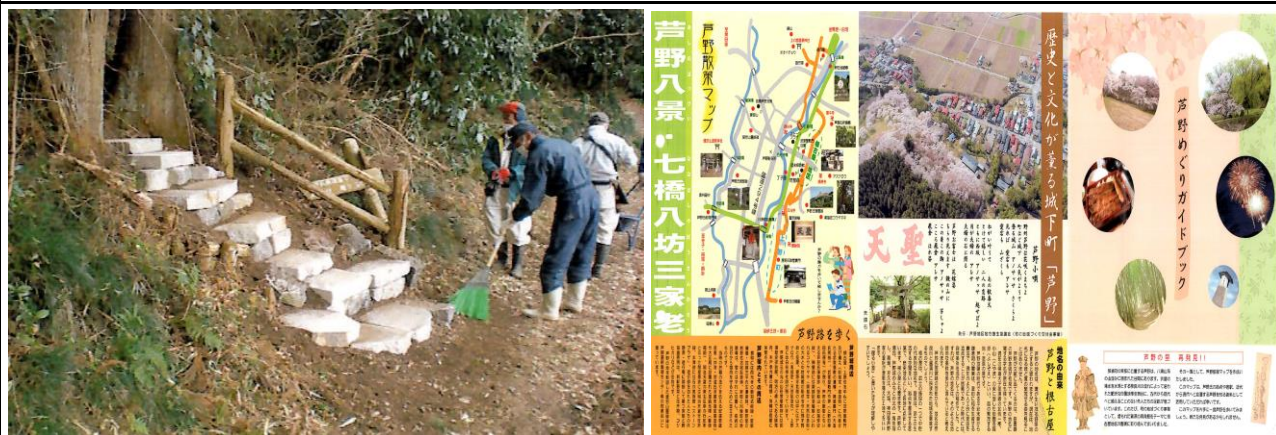
○景観の支障となる樹木等の除去と除草作業（10回、参加延べ人数40名）

○遊歩道の整備（2回、参加延べ人数9名） 遊歩道階段部分を丸太から芦野石に改修した。

○屋敷跡園地化作業（3回、参加延べ人数17名） 芦野石の卓や椅子の設置、敷石、植栽を行った。

③散策マップの作成 芦野の魅力を発信するため、散策マップ2,000部を作成した。

④活動内容について、既存ホームページ「もうひとつの那須 芦野」上で周知、PRを随時実施した。



◆事業の成果や効果◆

荒廃が進んでいた根古屋地区の景観が一変し、園地化への一歩が示され、復元（武家屋敷群）への足掛かりができた。さらに、散策マップを活用し、芦野の名所旧跡を訪ねてくる人々への利便性が図れた。

今後は地元案内ボランティアや歴史愛好家との連携を図りながら、観光客の誘致をはじめ地元製品の販売への活路となることが期待できる。

令和2年度地域づくり事業実績報告

【平成30年度～3年目】

団体名	黒田原放送協会	代表者	山崎雅人
事業名	インターネットラジオ放送局「だっばラジオ」を活用した那須町の魅力発信事業	事業費	602,503円
		交付金	500,000円

(1) 地域の現状と課題

那須町には年間500万人もの観光客が訪れているが、那須町民の「生の声」を知ることが出来るインターネット上の情報インフラが整っていない状況であり、リアルタイムでの地元からの発信が少ないことに気づいた。また、インターネット上での地元向けの情報発信や地元住民が楽しめるコンテンツも少ない。これらのことから、観光客や町外者に対する多様な情報発信、地域の方に対するコンテンツ発信不足を解消するために活動を行う。

(2) 事業目的

- 観光客や町外、県外の方への多様な情報発信を行い那須町の知名度向上と魅力発信、地域のファンを獲得する。
- 地域間の垣根を超えるインターネットをツールとし、幅広い年代の地域住民がパーソナリティを務めることにより生まれる独自の目線や感性、情報を定期的に発信することで地元愛の醸成とにぎわいの創出を図る。

(3) 事業概要

- ラジオ番組告知宣伝（通年）
 - ショップカード（ちらし）を作成して認知度の向上に努め、Twitter等のSNSを活用して放送情報を発信した。
 - インターネット環境が無い方への訴求力を高めるため、ラジオ局にモニターを設置した。
- ラジオ番組の強化（通年・Youtubeのチャンネル登録者数696人）
 - 生番組の放送を継続し、一眼レフカメラ、ワイヤレスマイクの使用、ドローンを活用した撮影編集に挑戦した。
- 地域との連携強化（実績8回）
 - 町内の各所から番組収録を行い、「全力那須」シリーズの収録を実施し、地域の「見せ方」に工夫を凝らした。
 - 地域の垣根を超えてオンライン中継を実施した。（山形県中山町、ベトナム・ホーチミン市）
 - 黒田原駅前映画祭の様子を生中継するなどイベントへも参加した。



◆事業の成果や効果◆

だっばラジオの放送媒体はYouTubeでの生放送がメインであるが、多くの方に町の魅力を伝えるために、様々なターゲットに向けた日替わりパーソナリティによる楽しい番組制作に向け工夫を行っており、チャンネル登録者数が継続的に増えている。

今年度は3名の新パーソナリティが追加され、新番組の増加や番組自体の強化、収録番組などのコンテンツ制作から情報発信力を向上し、集客や交流人口の増加に寄与している。

令和2年度地域づくり事業実績報告

【平成30年度～3年目】

団体名	那須高原クロスロード振興会	代表者	北牧修平
事業名	高齢者の生きがいつくりとお出かけ支援事業	事業費	128,086円
		交付金	128,086円

(1) 地域の現状と課題

那須町北部エリアは、高齢化、過疎化が進み、高齢者の健康維持及び地域コミュニティの希薄化が課題になっている。高齢者の健康維持には、「お出かけ」が重要であり、高齢者の生きがいつくりにも大きく寄与する。しかし、「お出かけ」したくてもできない人がいる現状もあり、健康増進及び生きがいつくりという高齢者のニーズに適合した「お出かけ」支援が必要である。

(2) 事業目的

高齢者のお出かけ支援のニーズ調査の上、そのニーズを満たすために住民が主体となった助け合いによるお出かけ支援事業を展開し、高齢者の健康増進と生きがいつくりを醸成する。また、事業を通じて世代間の交流を図り、地域住民の郷土愛を醸成する。

(3) 事業概要

①有識者検討会（2回）、学習会（1回）の実施

- ・有識者検討会（7/15開催・参加者1名、3/7開催・参加者2名）
 かながわ福祉移動サービスネットワーク事務所へ依頼し検討会を実施した。3/7はZOOMにより実施した。
- ・学習会（11/25開催、参加者9名）
 お出かけ支援事業について、ZOOMにより学習会を実施して、コロナ禍での事業実施のあり方を学んだ。

②試験運行（3/9実施・参加者7名）

- ・会員と有志でコロナ禍に配慮した試験運行を実施した。（那須まちづくり広場～芦野温泉まで運行）
- ※当初予定していた下記の事業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施が困難となり中止せざるを得ませんでした。

①定時運行：7～3月まで週一回運行（黒田原、芦野ルート/白河ルート/黒磯ルート）

②地域イベント移動支援：7～1月までの合計6回、那須まちづくり広場を含む地域のイベントに送迎を実施

③お出かけサロンの開催：事業改善のため、利用者からニーズを伺う場を設ける（2回）



◆事業の成果や効果◆

町北部エリアにおいて、高齢者のお出かけ支援の必要性についてニーズ把握を行い、地域住民が主体となった助け合いによる送迎の仕組みづくりに向け活動を続けてきた。

コロナ禍における移動支援のあり方を調査・検討し、送迎における感染症予防対策のノウハウを得ることができ、相互扶助による送迎を継続して実施することにより、地域住民の生きがいつくりと運転免許証を返納した後も安心して生活できる環境づくりが期待できる。